

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第75号(2013. 6. 1)  
事務局川西地区自主防災会

## さぬき市の取組みを大山市長にお聞きしました！

※さぬき市は、2002（平成14）年4月1日、旧香川県大川郡の津田町、大川町、志度町、寒川町および長尾町の5町が合併して誕生しました。人口は52,832人、世帯数は20,257世帯（2012年1月1日現在）、面積は158.90k㎡（2011年10月1日現在）です。香川県庁所在地の高松市から東へ約15kmに位置しています。

※大山市長のプロフィール 昭和25年9月生まれ。

昭和50年4月、香川県庁に入庁後、長寿社会対策課長、人事課長、商工労働部次長、農政水産部長を歴任。平成18年に香川県庁を退職後、さぬき市長に就任。

今月は、昨年の綾川町藤井町長さんに続いて、さぬき市の大山市長さんにインタビューをお願いしました。大山市長さんとは平成元年ごろからご親交をいただいております、いろいろとご指導も含め、大変お世話になっております。インタビューは5月16日（木）午後2時から約1時間さぬき市役所3F応接室にて、行いました。



Q. さぬき市のまちづくりについて、お伺いします。

瀬戸内海岸から徳島県境に至る5町合併によるまちづくりの現状はいかがなものでしょうか？

A. 旧大川郡の5町が合併して12年目になります。

平成の大合併としては、全国でも時期が早く、合併当初は5つの町がどうしてスムーズに合併できたのか、視察も多くありました。しかしこの合併は課題を先送りして、合併後考えていこうという「消極的合併」であったように思えます。



例えば、旧3町（長尾、寒川、大川）の組合立大川病院の存続建築問題は、当初計画は120億円規模であり、資金繰りは市債発行で何とかするが、いずれにせよ借金であり返済が必要なため、病院の「規模」を見直しました。

また、コミュニティバスの運行に毎年約6千万円の一般財源を投入するほか、ケーブルテレビの運営など、財政的に厳しい課題が

山積していた平成 16 年に高潮被害と、内陸部では甚大な風水害が発生し、災害に対する取組みにも力を入れる必要性が生じてきました。

中でも、南海トラフにおける巨大地震では、津波は大きいものでは 5メートルと想定され、香川県内で志度湾が一番大きな影響を受けます。



津波対策については、とにかく高台へ避難することを主体としたソフト対応と避難所の見直しが必要です。最低、地域ごとに 2 か所を設置し、市民の皆さんには、複数の選択肢を用意して大きな災害に備えたいと考えています。

合併後、市民から「町」の時代は役場との意思疎通がうまく行われていたが、「市」になって、市民の声が市役所に届かなくなったと言われており、自助と公助が歩み寄って、災害対策のみならず、「まちづくり」という広い範囲まで含めた共助の仕組みをつくりたいと思っています。

Q. 地域のしくみ作りについてお伺いしたいと思います。

3~4 年前、さぬき市の中で防災訓練を行うため、地域（小学校エリア）の案内を依頼したところ、自治会と校区内で束ねる組織が無いと言われた。

その時は、福祉のネットワークによって案内させていただきましたが、現状はいかがでしょうか。

A. 行政組織は、国から地方まですべて縦割りになっていますが、住民側の受け手はひとつであって、すべての事に対して、関係してきます。

さぬき市の自治会は 383 ありますが市役所とタイアップしていくには、旧小学校区単位で行うのがベターと考え、現在、複数の自治会を束ねて「支会」をつくっています。例えば、津田町では 3 つの支会が、さぬき市全体では 16 の支会があります。



平成 23 年度から 3 か年計画でまちづくり活動事業を実施して、小さな支会でも 1 千万円の予算をつけていますが、それぞれの単位自治会の要望が多く、支会の中でまとめ切れていないのが現状です。

当面はハード面での整備となっていますが、近い将来、ソフト面も含め、幅広いまちづくり事業に活かせるように進めていきたいと考えています。

Q. 少子高齢化時代をむかえつつ、10年後のさぬき市のグランドデザインについてお伺いします。

A. 2040年には、現在約53,000人の人口が約35,000人位に減少することが想定されており、人口減になると、働き手が少なくなり、地域の担い手がいなくなって、まちの活気がなくなってしまいます。

長期的にみると、子供を増やすことが必要ですが、これは容易ではありません。



さぬき市において、若い人が結婚すると、高松市や三木町へ出て行くことが多い。何故かと、若手職員の政策研究として調査すると、例えば結婚して、夫はさぬき市役所、妻は丸亀市の企業と共稼ぎの場合、双方の交通の便を考え、さぬき市を出て三木町に住むというようなケースが、多くなっていることが分かりました。

そこで、定住促進策として、家屋の固定資産税の優遇やお祝金などを支給するという制度をつくりました。

しかし、何といたっても雇用の場を作ることが大切です。海産物加工などの企業を誘致しましたが、企業の立地条件として、特にすぐれたものが無いさぬき市では、一次産業を大切にしたい取り組みも必要と考えています。

志度湾産という魚のブランドを活かした漁業の振興や農業法人組織による「集約型農業」の展開、例えばミニトマト、ハウスいちご等の栽培を行うなどです。

一次産業が衰退すると、「地域が荒れる」し、「環境も荒れる」。更には、「人の心も荒れる」ことにつながります。

そのような意味において、一次産業が元気な地域、豊かな漁場や水田が広がっている地域は社会的にも価値があると思っていますし、人口を減少させない工夫として、教育に力を入れ、不登校やいじめのない学校づくりや観光の振興等にも取り組み、市外の人に来てもらえる魅力のあるまちづくりを進めたいと考えています。

Q. 南海トラフによる地震対策について、お聞かせて下さい。

A. 昨日も四国市長会がありました。高知県内の市長さんは、地震対策に多くの課題を抱えておられるようでした。さぬき市においては、まずは、津波の前に震度6強による家屋の倒壊が問題で、



これに耐えられる家屋の耐震補強を進める必要があります。津波に対しては、海拔の高い所へ逃げるのが一番との学者のすすめもあり、53,000人（さぬき市全員）、一人ひとりの避難方法を考えてもらいたいと思います。

縦割り行政の弊害をカバー出来る自主防災組織の育成に力を注ぎ、現在、65%の組織率を100%近くまで引き上げると共に、質も高める取組みを進めていきます。



助けが来るまで自分達で頑張れるような仕組みづくりの推進とともに、行政としても正しい知識の下にハード・ソフト両面で、出来る限りの対策を講じることが大切だと思っています。特にソフト面の対応をしっかり行いたい。

Q. 市長さんが「大切」にしている言葉をお聞かせ下さい。

A. 最近の風潮として、結果重視の傾向が強すぎるなかで、一生懸命努力する人達を正當に評価する社会を目指したいということで、私は「努力は報われる」という言葉を大切にしています。

Q. 市民の皆さんに求めることは？

A. 市長が市民に何かを求めるということは、おこがましいのですが、私としては、お互いに向き合うことを望んでおり、市民の皆さんとの距離を少しでも縮めていきたいと願っています。色々なことを聞いてほしいし、市民の皆さんからは、何でも聞かせてほしいと思っています。

Q. 最後にかがわ自主ぼうに対してのご意見をお願いしたい。  
今年度のフォローアップ事業、さぬき市と観音寺市を強化地域として取り組む予定です。

A. 取組みへの切っ掛け作りとあわせて、活動の継続の手本とさせてもらい、市民の皆さんには、かがわ自主ぼうから学んだノウハウを広めてほしい。また、そうした活動を通じて、生活全般にわたっての「地域力アップ」につながる取組みになってほしいと思っています。是非ともよろしくお願ひします。

## 各地区コミュニティを紹介します！

今月は、丸亀市城坤コミュニティセンター（ふれあい城坤）より原稿をお寄せいただきました。

### 城坤コミュニティ概要と取組み

城坤コミュニティセンター 丸亀市今津町 283 番地 Tel.23-8129  
・世帯数 5,796 世帯 ・人口 13,667 人

丸亀市17コミュニティセンターのうち、一番大きな規模で旧城下町の西に広がる、静かで美しい田園地帯。北は瀬戸内海を臨み、昔は塩田と団扇のまちとしてにぎわい、現在は臨海工業地帯として栄えています。西には南北に流れる金倉川、中央部には西汐入川が流れ先代池や田村池など大小のため池が灌漑用水として豊富な水をたくわえています。また学童の施設として、2つの保育所、幼稚園、小学校と、高等学校があります。

こういった地域の現状から、災害(防災)については多様な対策が必要となってきます。

現在センター内には6つの部会があり、防災に関しては「環境生活部会」が担当し(ふれあい城坤自主防災会)主として自治会長で構成されている。

平成24年度の活動としては、地域内の2つの介護施設入居者を対象に、地区民生委員、福祉ママ、福祉協力員、自治会長、そして消防分団による避難訓練(担架・消火・AEDなど)を実施。また、川西自主防災会との協同訓練として、城西高校の学生を対象とした防災訓練体験学習の実施。

平成25年度は上記以外にも、金倉川親子清掃に併せて地区婦人部による炊き出し訓練を予定。

【現在、組織の見直しならびに活動3カ年計画の立案を検討中】

※特異なまちづくり活動として

1、六郷の里やさいづくり塾・・・休耕田を利用し、年間を通じての野菜づくり。

2、介護予防事業・・・民生委員、福祉ママ、福祉協力員、自治会が相互協力(網目の細かいネットワーク)体制で、高齢者の見守りや、介護予防活動に取り組んでいる。



六郷の里やさいづくり塾



セントケアでの避難訓練

# 事務局だより

平成25年6月

かがわ自主ぼうの事務局を担当している「川西地区自主防災会」最近の活動を紹介します。

## かがわ自主ぼう「第一回定期総会」を開催

去る5月11日（土）、高松市民防災センター3F大ホールにおいて、香川県危機管理総局長の松尾様をお迎えして第一回の定期総会を開催しました。

提案、議題すべて満場一致にて採択され、平成25年度の取組みを本格的に実施しますが、その内容についてお知らせします。



昨年度に引き続き、自主防災組織に対するフォローアップ事業を展開します。

- (1) 強化地域として、「観音寺市」と「さぬき市」
- (2) 継続フォロー地域として  
高松市、坂出市、三豊市、琴平町、まんのう町、綾川町
- (3) 新規地域として  
宇多津町、小豆島町

更に香川県総合防災訓練等への積極的な支援を行なうこととしました。

## 編集後記

今月の防災減災の輪は、さぬき市大山市長さんをインタビューさせていただきました。又、城坤コミュニティより原稿をお寄せいただきました。誠にありがとうございました。